

# 新連載

# 第1回

# 労働組合活動を100倍楽しくする方法

## 無理なく、楽しく、ためになる日常活動

地域労組としての公共一般地域分会 (自治労連山形事務所) 佐藤 完治さん

今号より、労働組合を100倍楽しくする方法」と題して、各単産、単組や地域労連による楽しくいきいきとした活動を広げようと、企画を連載します。初回は、自治労連公務公共一般・北村山分会の活動を掲載します。(学習の友)3月号にも掲載されました。

「無理なく、楽しく、ためになる」をモットーに

自治労連・山形公務公共一般労働組合 以下「公共一般」北村山分会は3人の退職者や活動家が準備した2011年夏発足。「職場や介護制度を一緒に考えていける介護の仲間をたくさん作りたい」という介護労働者Aさんらを加え現在4人を中心に活動しています。自己犠牲を極力排除して「無理なく、楽しく、ためになる」をモットーに、職場にたった1人の組合員がどう活動が続けるか、単産加盟ではあるが職場、職種を横断し地域単位で作る「地域労組としての公共一般」の姿を模索しました。組合員が「お客さん」ではなく「当事者」と2012年



2013年労働相談オルグ連続講座で熱心に討議

から月1回の例会に位置づけたのは、分会メンバーのチューター持ち回りによる全労連の推薦図書「新たな福祉国家を展望する」の輪読。レポートの完成度はあまり気にせず、みんなの討論が会を豊かにしてきました。メンバーの関心から輪読本は「スウェーデンの実験」講談社現代新書)にスパシアウト。「高福祉というより貧困をなくした国」「離婚が増え、老人はさみしそう」それは福祉制度のせいでなく自由を得た人々の新たな課題?「私なら老後自由を得たらもう一度大学に入りた」など話が弾み、2015年5月の終了時には「あ、楽しかった」という感想が自然にあふれました。

### 労働相談に備え要求実現にこだわる

オルグで仲間を増やしたが、相手の話に答えられないのは無責任とのT分会長の問題意識から、2013年新庄最上ローカルユニオンや地域労組やまがた北村山分会と一緒に実行委員会を作り、「労働相談オルグ連続講座」を実施。組合員がインターネットや文献を参考に争議、労働相談事を調査、レポートし討論に供したところ好評。翌年同じ実行委員会で4回連続の「労働相談連続講座」とし、全編組合員の県内争議相談事案調査、レポートとしました。基本的労働法制に加え使用者がどう話をはぐらかすかなど「筋縄でいかない部分にも触れた実践的な「総合学習」に。事案担当役員や当事者にも同席してもらいました。

労働組合である以上要求実現のための運動体であるうと、県労連や社保協の自治体キャラバンに参加、対使用者交渉以外の「要求実現の経路」を実感するよう努めました。

### 成果を焦らず仲間づくり

2015年6月から分会は組合員拡大の企画にチャレンジ。得意の「文献輪読」を公開にし、助言者の助言を加えた形で「2015改正」介護保険学習会」が連続3回でスタート。自分たちが楽しめることやりたいことを、長島やイチローも毎打席ヒットは無理。気楽に継続することが肝要との発想。分会のYさんKさんが18か所施設訪問オルグをした効果で1回目は4施設から5人が参加、「利用者のためにと仕事を頑張れば家に帰る時間がない」「若い頃の情熱が薄れ数字ばかり追っている」などの本音や「皆さんの真剣な姿勢に励まされた」と会への期待の意見も語られました。「誰が誰に加入を呼びかけるか分担しては」と提案する私。でも分会は成果を焦りません。「2回目はもっとさつくばらんに本音を語れる場」とT分会長は運営改善に意欲を燃やし、1回目まわれなかった施設への訪問オルグ続行など準備に余念がありません。とことん分会の自主性で最後までやってほし

いと思っています。

### 地域労組の将来 自律的再生産の模索

先輩たちの努力の傍ら、日常活動継続の困難などから過去幾多の地域労組(分会)が活動停止に陥ったとか。職場の多数派獲得も一夜にしてはなりません。今後も労働相談やオルグで職場ではたった1人という組合員が加入する限り、集まりやすい身近な地域内で職場も職種も違う組合員が活動を共にする「地域労組としての公共一般」が求められます。仲間を信じて探し続けられれば、現役労働者だけで自律的再生産できる地域労組ができ、やがて職場や職種ごとの組合結成をリードする組合員の苗床となるでしょう。



腰痛予防体操